

国際会議等参加費支援 受給者報告

「 国際学会に参加して 」

大学院理工学研究科博士前期課程 情報工学専攻 1年 遠藤 萌

2023年7月23-28日にルーマニアのクルジュ=ナポカで開催された 27th International Conference on Production Research (ICPR2023)



執筆者写真

に参加しました。この学会は、生産システムや生産プロセスといった生産に関連する研究に関する学会です。私は、疲労を考慮した作業配置に関する研究の発表をしました。開催形態は完全対面方式でした。前回の ICPR ではオンライン開催であったため、対面で参加できることに嬉しさと、若干の不安がありました。なぜなら、私は今回の国際学会が初めての学会参加であり人生で初めての海外渡航だったからです。人生初の海外がルーマニアというのは、なかなかない経験だと思います。学会の2,3カ月前は海外に行けることに嬉しさを感じていましたが、1週間前になると緊張や不安の方が上回っていました。英語が苦手であるため、発表や質疑応答に不安がありました。しかし、その分発表練習や想定質問への応答の準備を念入りに行いました。発表に関して、スライドに書いていないことは暗記しどのような事態にも対応できるよう準備をしました。その結果、発表会場では発表者ツールが見れない状況でしたが、準備をしていたおかげで聴講者の方を見て自信を持って発表することができました。質疑応答においては、想定外の質問がきましたが1度聞き直し、理解してから無事に回答できたと思います。

2日目の夜は学会主催の夕食会に参加し、ルーマニアの民族ダンスを鑑賞しました。また、民族音楽に合わせて研究者たちが続々と手をつないで円になって踊りました(写真1)。私もその中に交ざって踊りましたが、私と手をつないでノリノリで踊っていた人が、私が発表していた時に険しい顔でタイムキーパーをしていた人で、いい意味で研究者は真面目過ぎていないと思いました。このほか、同年代の日本人学生と意気投合して話が弾

んだり、研究者たちと会話を楽しんだりしました。この夕食会で経験したことは人生で忘れられない思い出です。

少しの時間でしたが観光もしました。1人でバスやタクシーに乗ることに難易度が高く感じてしまい、炎天下の中5時間も歩いてしまいました。海外の街並みを生で観るのは初めてであったため、歩いたのもいい経験になったと思います。しかし、次に海外へ行く機会があれば1人でも勇気を振り絞って交通機関を利用したいと思いました。

最終日に BOSCH と EMERSON の工場を見学しました。工場の敷地内が1つの街のように大きく各々の設備が綺麗でした。作業者が少なく自動化が進んでいるように見えました。BOSCH の工場では、トヨタ生産方式というトヨタ自動車発祥の生産方式で用いられている「かんぱん」があり、日本発祥の生産方式が世界で採用されていることに感動しました。

今回の国際学会で自身の研究を海外に発信することは非常に貴重な経験となりました。他の研究者の発表からはプレゼンの技巧や新たな視点を学ぶことができ、視野が広がる良い経験となりました。今回このような機会を設けて下さりサポートしていただいた原口講師、発表に関するアドバイス等をいただいた研究室の皆様、そのほか支えていただいた皆様に深く感謝申し上げます。



写真1 発表の様子



写真2 民族音楽で踊る会